

## 6月24日(土)乳幼児教育ビジョン講演会を実施しました

### 参加園/校

保育所・幼稚園・小学校・中学校の先生方の研修とあわせ、市民の皆さんに、未来を生きる子ども達にこれからどんな力や教育が必要になるのか、子育てをするうえで大切にすべきことを知っていただくため、講演会を開催しました。  
市外からの参加も含め、165人の皆さんとともに、学びを深めることができました。

日時:平成29年6月24日(土) 13:30~16:00  
場所:舞鶴市商工観光センター5F コンベンションホール  
講演:「環境を通して主体性を育む」

国立教育政策研究所 幼児教育研究センター 総括研究官 掘越 紀香氏  
対談:「これからの乳幼児教育～未来を担う子ども達へ今、大切にすべきこと～」  
国立教育政策研究所 幼児教育研究センター 総括研究官 掘越 紀香氏  
神戸大学大学院 准教授 北野 幸子氏  
話題提供 舞鶴市乳幼児教育コーディネーター

- 永福保育園
- 岡田保育園
- さくら保育園
- 相愛保育園
- タンポポハウス
- なかすじ保育園
- 東山保育園
- 八雲保育園
- やまも保育園
- ルンビニ保育園
- うみべのもり保育所
- 中保育所
- 西乳児保育所
- 朝来幼稚園
- 池内幼稚園
- 倉梯幼稚園
- 中舞鶴幼稚園
- 三鶴幼稚園
- 舞鶴幼稚園
- 大浦小学校
- 城南中学校

### 講演「環境を通して主体性を育む」

子どもが集中・没頭している時が学びの時。  
その姿を認めたり、皆で共有したり、意味づけたりすることが、保育者の役割。  
～掘越先生講演より～

【子どもの「見る」という行為に着目した事例より】  
・自分が体験できないことも、友だちの姿を「見る」ことで、体験していることもある。  
・やり方をじっと見て観察する姿は、次に主体性を発揮するための「見る」につながる。  
・子ども達がどんなことを学んでいるのか、子どもたちの「見る」という行為にも着目することによる学びが見えてくる。

◎幼稚園教育要領・保育所保育指針等の改訂(定)では、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を規定し、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿が明示さ



れ、幼児期の教育の学びの成果として小学校と共有されるよう工夫・改善を行うことが目指されている。

【海外の縦断調査研究より】  
[アメリカ ペリー就学前計画]

・所得の厳しい家庭の3・4歳児に対して、質の高い保育と家庭支援等を実施。  
・追跡調査により、幼児期に質の高い保育、家庭支援を受けた場合、将来の所得向上、生活保護の受給率の低下につながった。  
・認知的能力は小学校の比較的早い時期に差はなくなるが、非認知的能力(動機づけ、粘り強さ、自己調整力)が将来の所得向上などに長期的な効果をもたらした。

[イギリス EPPE研究]

・就学前の教育の質により、11歳時の学力や非認知の自己調整力に差がみられた。質の高い教育を長く受けていた場合、読み書き能力、社会的スキルなどにも肯定的な効果がみられた。特に3・4歳時点で質の良い教育を受けていることがその後の効果に影響していた。

◎幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、それらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりすること。それが「幼児期の教育における、見方・考え方」であり、小学校以降の教科等の見方・考え方の元になる。



◎「学びの過程」として、遊びを創出し、没頭して遊んだ後に振り返ることが大切。遊びを振り返り、見直しを持ち、期待して次へつなぐことで思考力の芽生えが育まれる。それが小学校以降の習得・活用・探究につながる。

◎子どもが集中・没頭している時が学びの時。うまくいかない時も友だちや保育者の支えで粘り強く取り組んだり、悔しさから「今度こそ」と再挑戦したりして集中・没頭する姿が大切。その姿を認めたり、皆で共有したり、意味づけたりすることが、保育者の役割。

◎子どもの「学び」と、「学びに向かう力」の育ちを捉え、支えていくことが大切。

◎自らの教育的意思決定に気付き、援助のタイミング「その時」を見定め判断すること、継続的に読み取って省察する(振り返る)ことが大切。

### 対談「これからの乳幼児教育～未来を担う子ども達へ今、大切にすべきこと～」

対談では、舞鶴市乳幼児教育コーディネーターより、ドキュメンテーションに書かれてる子どもの育ちや学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」で捉えた事例を話題提供として報告しました。今後も、ドキュメンテーションや「10の姿」について学びを深め、保育を可視化発信していきます。

3歳児 秋～冬 (事例)

子どもの興味・関心  
ままごとのフライパンをギターにして遊んでいる  
子どもの興味・関心  
ぼくも作りたいたい(友達のギターを見て)

意図的な環境  
保育者の関わり  
楽器作りを提案  
楽器の写真準備

育ち・学び

・自分なりに考え、工夫してイメージしたものを作るようしている  
・あきらめずにやり遂げようとしている

自立心

(掘越先生:以下:掘)3歳児のギターを作る場面で集中して、じっくり取り組む姿は、10の姿の「自立心」につながるのではないかと話があった。10の姿1つだけでなく、複数に関わるものも多い。「ぼくも作りたい」とドラムセットを作る場面では、最初それぞれが楽しそうと思ったことをやっていたが、一緒にやったら合奏になった点で、「協同性の芽生え」につながっている。最初は別々だった目的が一緒になって素敵なことができた、それが3歳児らしい「協同性」の芽生えの姿ではないだろうか。

(北野先生:以下:北)幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿とは、小学校や保護者に保育実践を伝え、何を大切にしているのかを言語化する材料・道具と言える。

この10の姿の活用の仕方について、ご助言いただきたい。

(掘)幼児期の教育は見えにくく、伝えることの難しさはある。10の姿を使って社会に説明していくことで、学校の先生や保護者、地域の人々の幼児期の教育への理解を得られるようになるのではないかと。そうして園の応援団を広げていただきたい。

## 対談 つづき



10の姿は到達目標ではない。こういう姿に育ってほしいという願いをもって、保育を展開していく専門性が大切。

(北)10の姿は、これからの幼児教育や教育全体で考えた時に、小学校・中学校・家庭とも共有できる言語だということがポイントである。

保育者が保育実践をやりっぱなしにしないで、理解したり、実践の振り返りにつなげる方法を助言いただきたい。

(掘)10の姿は到達させなければならない目標ではない。こういう姿に育ってほしいという願いをもって、目の前の子どもに保育を展開していく専門性が大切。自分自身の保育を振り返るために10の姿を活用してほしい。

また、事例を話し合うことで、自分の見方・捉え方の傾向に気付くことができる。第三者の写真や記録も、他の先生との違いに気付く、自分の保育を振り返る道具となる。自分の見方や、

援助のタイミングを自覚化することから始めてほしい。

(北)10の姿がどんな風に使われていくかという危惧がある。

遊びや生活の中の事例があって、意味づけや位置づけ、説明するとき、伝え合い・話し合いの場面で使えるが、質向上のための使い方を伺いたい。

(掘)文科省・厚労省・内閣府は、10の姿について誤解がないようにしたいと考えていると思う。小学校以上の先生や保護者にも分かりやすい共通言語として、幼児期の意義を発信し、その理解を得ることは必要である。

遊びの中で子ども達が主体的に取り組み学んでいることを正確に捉えて発信するとともに、よりよい保育を展開し、子ども達の育ち・学びを保障することが大切である。

質向上のために、公開保育等で実際に遊んでいる姿を共に見た後、10の姿のこの部分とつながると確認しながら進めるのではどうか。

(北)舞鶴市はみんなで研修して公開し、記録の見返しを小規模でやっている。今後さらに舞鶴市が研修をすすめていく上でのご助言をいただきたい。

(掘)舞鶴市は複数の専門家が関わっており、各先生方の視点からどうしたらよいか提案されている点が強みであり、研修を大事にしているところが良い。

公開保育は実践した先生方の勉強になるだ

けでなく、公開保育に参加した先生方が自分の教育的瞬間はどこだろうと見定めるための良い機会になっている。

他園からの研究部員を置いて、公開保育を作り上げていくプロセスを一緒に経験してもよいただろう。比較的若手で、これから育てたい先生が学ぶ機会になるほか、自園でも実践してみることにつながる。市内全域に広げる際に研究部員を置くことは一つの方法である。

(北)素晴らしいヒントをいただいたと思う。舞鶴市は乳幼児教育センター設置を目指すと思うし、アドバイザー制度もあるが、各園でミドルリーダーのような方が園内研修をコーディネートしたり、公開保育の準備をするための勉強として他園の研修や公開保育に関与していき、さらに幼稚園・保育所や認定こども園、公立・私立を越えて小学校も巻き込んでできれば良いと思う。



## 6月23日(金) 講義・グループワークを実施しました

## 講義「ドキュメンテーションとは」

「できた」「できない」でなく、「気持ち」「どんな様子」など結果ではなくプロセスを伝えることが大切。 ～北野先生より～

## [プロジェクト型保育]

◎プロジェクト型保育は、生活や遊び、自然体験の中で、子ども自身が、おもしろそう、やってみよう、何でだろうと思ったことについて探究したり、比べたり、調べたりして深めていく保育。あるテーマについて没頭して遊ぶ、遊び込む保育を大事にする。

◎子どもの生活(心の生活)を陶冶する  
・知識を与える教育でなく子ども自身が自分で成長していけるような生きる力、応用可能な力をつけていく。

・単に遊ばせているだけでなく、子どもの興味関心(知りたい、やってみよう、試してみよう)を捉えて深めていく。

◎フォーマル(順番通り)ではなく、インフォーマルな環境は、子どもの表現、意思理解、アイデアが現れやすい。

## [ドキュメンテーション]

◎ドキュメンテーションは、子どもの姿や言葉や行動を記録し、遊びや生活の中で何を学び、どんな風に育っているかを可視化する1つの方法としてある

## ◎可視化の目的

・保護者や第三者に伝え知ってもらう。  
・子どもと共有し、振り返る。  
・他のクラスの保育者と共有し、保育の振り返りに活用することができる。

## ◎単なるエピソード記録から脱却し、専門職による業務記録へ

・与えられた経験、順序のある経験でなく、子ども自身の気持ちが発揮されて導かれた遊びの中で育つ学びを可視化する。

・好奇心、探究心、憧れを見取る。  
・保育者自身が子どもの発達を知り、育ってほしい子ども像を書いていく。

・「できた」「できない」の結果ではなく、プロセスを伝える。

与えられた経験、順序のある経験でなく、子ども自身の気持ちが発揮されて導かれた遊びの中で育つ学びを可視化する。 ～北野先生より～

## 参加園

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
平保育園	西乳児保育所
タンポポハウス	
東山保育園	朝来幼稚園
八雲保育園	池内幼稚園
やまもも保育園	舞鶴聖母幼稚園
ルンビニ保育園	三鶴幼稚園
	舞鶴幼稚園

## ◎どんな写真で可視化するか

・子どもが対象と関わる姿。手元のアップ。  
・子どもの視線の先にあるもの。  
・人と関わる場面(数人で話し合う、教え合う、工夫し合う場面)

◎専門的な実践記録は、議論、評価、専門性の向上が可能。



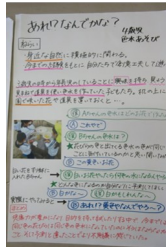
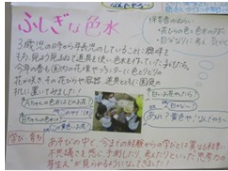
## グループワーク「フレッシュ向け」

「フレッシュ向け」として実施したドキュメンテーション研修には、経験年数だけではなく、ドキュメンテーションを書いたことがない、これから書いてみたい、という先生方にもご参加いただきました。

8つのグループ(3人～4人)にわかれて行ったグループワークでは、事例の記録と写真を基に、実際にドキュメンテーションを作成していただきました。先生方からは、「実際に書いてみて、とても難しかったがグループの方と考えたり、まとめることは楽しかった。」「子どもの心が動いた瞬間を見逃さず捉えていきたい」「声やつぶやきをしっかりと聞きたい」など、前向きな意見をたくさんいただきました。

ドキュメンテーションの作成は、今回初めての試みでしたが、この研修をきっかけに、園内でも取り組んでみたいという声も聞かれ、学びの多い研修会となりました。

## 〈事例1. 色水づくり〉

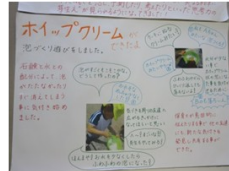


◎「花びらや容器、道具を置いてみた」→「子どもの興味に応じて置いていた」と書くことよい。

◎子ども同士をつなぐ、子ども同士の共有、感情の共有を広げる。

◎予測との違いは発見であり、それも書くことよい。発見は学びの芽生え。

## 〈事例2. 泡づくり〉



◎「私(保育者)もやってみた」「作ってみた」は人的環境。

◎子どもが経験的に気付いたことを保育者が受容、理解し、認め、発信しつづけている。それが教育的意図。

活動は手段であり、子どもの育ちが大事。  
育ちにつながる活動に目を向ける。  
～北野先生より～



※小学校・中学校の先生には、5領域は解りにくい、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」で表すと、育ちや学びを説明しやすい。

※業務の記録は繰り返すことで書けるようになる。自分の保育に自信を持って書く。

※「タイトル」も工夫して、子どもの気持ちを表現するものだとよい。

乳幼児教育の質の向上研修には、ご多用にもかかわらず、毎回たくさんの先生方にご参加いただき、感謝しております。未定となっていました9月12日・10月12日に、公開保育を実施していただく園が決定しましたので、お知らせします。

## 乳幼児教育の質の向上研修 年間計画：保育者・教員等対象

※都合により変更となる場合があります。

研修期間	研修名	内容	場所
5月25日(木)	保幼小連携研修	保幼小中の連携、接続について 講演：溝邊和成先生	商工観光センター 4F展示交流室
6月23日(金)	子どもを主体とした保育	(フレッシュ向け) グループワーク：ドキュメンテーション	西総合会館 4F第1会議室
6月24日(土)	乳幼児教育ビジョン講演会	講演：掘越紀香先生 対談：北野先生、掘越先生	商工観光センター 5Fコンベンションホール
7月24日(月)	子どもを主体とした保育	(保育リーダー向け) グループワーク：ドキュメンテーション	西総合会館3F (林業センター) 会議室
8月18日(金)	保幼小連携	連携活動指導案作成	舞鶴市政記念館
9月12日(火)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	八雲保育園
10月11日(水)	子どもを主体とした保育	ドキュメンテーション研修	中総合会館4F 401会議室
10月12日(木)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	永福保育園
11月8日(水)	子どもを主体とした保育	ドキュメンテーション研修	未定
11月9日(木)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	中舞鶴幼稚園
11月13日(月)	保幼小連携	連携活動公開授業・保育研究会	なかすじ保育園、 池内幼稚園、 中筋小学校のいずれか
12月7日(木)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	うみべのもり保育所
12月23日(土)	報告会 乳幼児教育フォーラム	報告会(午前) 乳幼児教育フォーラム(午後) 講演：無藤 隆先生	商工観光センター 5Fコンベンションホール
1月30日(火)	保幼小連携	連携活動報告	未定